



Red Hat Decision Manager 7.6

Red Hat Decision Manager 7.6 リリースノート

リリースノート

Red Hat Decision Manager 7.6 Red Hat Decision Manager 7.6 リリース ノート

リリースノート

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2022 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Release_notes_for_Red_Hat_Decision_Manager_7.6.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本書は、Red Hat Decision Manager 7.6 のリリースノートです。

目次

はじめに	3
第1章 製品の概要	4
第2章 新機能	5
2.1. BUSINESS CENTRAL	5
2.1.1. 変更リクエスト	5
2.1.2. テストシナリオ	5
2.1.3. Business Central における汎用エラーダイアログの向上	5
2.1.4. Decision Model and Notation (DMN) デザイナーの改良点	5
2.1.5. 高可用性 Business Central	6
2.2. プロセスデザイナー	6
2.2.1. プロセスデザイナーの更新	6
2.3. RED HAT BUSINESS OPTIMIZER	6
2.3.1. Red Hat Business Optimizer の更新	7
2.4. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM	7
2.4.1. Operator デプロイメントでの AMQ 設定のサポート	7
第3章 非推奨コンポーネントと削除されたコンポーネント	8
3.1. AUTOMATION BROKER を使用した RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM へのインストール	8
3.2. レガシーのテストシナリオツール	8
3.3. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM 3.X のサポート	8
第4章 テクノロジーレビュー	9
4.1. RED HAT JBOSS EAP での高可用性オーサリング (オンプレミス)	9
4.2. CONSTRAINT STREAMS API	9
4.3. OPENSIFT OPERATOR インストーラーウィザード	9
4.4. ELASTICSEARCH の後継 RED HAT JBOSS DATA GRID	9
第5章 既知の問題	10
5.1. BUSINESS CENTRAL	10
5.2. 高可用性	12
5.3. DMN デザイナー	13
5.4. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM	15
5.5. オフライン MAVEN リポジトリ	16
第6章 RED HAT DECISION MANAGER 7.6.0 で修正された問題	17
6.1. デシジョンエンジン	17
6.2. BUSINESS CENTRAL	17
6.3. 高可用性	18
6.4. DECISION SERVER	18
6.5. DMN (DECISION MODEL AND NOTATION)	18
6.6. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM	18
付録A バージョン情報	19

はじめに

本書では、Red Hat Decision Manager 7.6 の新規機能、テクニカルプレビュー機能、既知の問題、および修正された問題を説明します。

第1章 製品の概要

Red Hat Decision Manager は、ビジネスルール管理、複合イベント処理、Decision Model & Notation (DMN) 実行、およびプランニングの問題を解決する Business Optimizer を組み合わせた、オープンソースの意思決定管理プラットフォームです。これにより、ビジネス上の意思決定を自動化し、そのロジックをビジネス全体で利用できるようにします。

ルール、デシジョンテーブル、および DMN モデルなどのビジネスアセットは、集中リポジトリに保存されます。これにより、ビジネス全体で一貫性や透明性を維持し、監査を行えます。ビジネスユーザーは、IT 担当者からのサポートなしでビジネスロジックを編集できます。

Red Hat Decision Manager 7.6 では安定性が増し、問題がいくつか修正され、新機能が追加されています。

Red Hat Decision Manager は Red Hat OpenShift Container Platform で完全にサポートされており、各種プラットフォームにインストールできます。



注記

Red Hat Decision Manager は、Java 8 以降が必要になります。

Red Hat Decision Manager のサポートポリシーの詳細は、[Release maintenance plan for Red Hat Decision Manager 7.x and Red Hat Process Automation Manager 7.x](#) を参照してください。

第2章 新機能

本セクションでは、Red Hat Decision Manager 7.6 の新機能について説明します。

2.1. BUSINESS CENTRAL

2.1.1. 変更リクエスト

同じプロジェクト内の別のブランチに、変更リクエストを送信できるようになりました。

2.1.2. テストシナリオ

Red Hat Decision Manager 7.6 で新機能がサポートされる Business Central のテストシナリオデザイナーが利用できるようになりました。

- 複数のテストシナリオで同じデータが共有されている場合には、**Background** タブを使用して、ルールベースおよび DMN ベースのテストシナリオ用にまとめて定義できます。利用可能なデータオブジェクトをもとに、専用のテストシナリオシミュレーションでは一般的な **GIVEN** データを追加して定義できます。
- ルールベースのテストシナリオでは、MVEL 式に接頭辞として **#** を指定し、テストシナリオ実行中にプロパティやインスタンスヘッダーセルに対して Java メソッドを呼び出すことができます。

2.1.3. Business Central における汎用エラーダイアログの向上

汎用エラーダイアログとは、Business Central で生成される各種ランタイムエラーについてユーザーに通知するためのポップアップウィンドウです。以下のリストに、汎用エラーダイアログの拡張機能をまとめています。

- エラーが生成されると、そのエラーはサーバーログに記録されます。必要に応じて生成されたエラーをフェッチして取得できます。
- 生成されたエラーのスタックトレースは、ポップアップ自体で確認できます。
- エラー通知を一時的に抑制するには、**Don't show this message again for** チェックボックスを選択して、ドロップダウンリストから期間を選択します。ただし、エラーメッセージは引き続きサーバーログに記録されます。
- 必要に応じて、エラーダイアログでエラー ID が表示されるのでエラーの詳細をフェッチできます。

2.1.4. Decision Model and Notation (DMN) デザイナーの改良点

Business Central の Decision Model and Notation (DMN) デザイナーには、以下の主な機能強化が含まれています。

- 自動的なレイアウトおよびデシジョンサービスの機能拡張。Business Central にインポートする DMN モデルがインポート時に自動的にフォーマットされない場合には、DMN デザイナーツールバーで、**Perform automatic layout** を選択できるようになりました。自動レイアウトをインポートした DMN モデルに適用した場合には、DMN デザイナーは、デフォルトサイズの 100x50 ピクセルを使用せずに、各 DMN ノードの高さと幅をそのまま使用します。また、インポートしたデシジョンサービスのノード内にあるノードは、デシジョンサービスノードの外で

は、これまでのリリースのように、順番の再整理はされません。また、意思決定要件図 (DRD) からデシジョンサービスノードを削除した場合には、デシジョンサービス内のノードは以前のリリースのように削除されません。

- **Data Types** タブのデータ型列のレイアウトの向上。親データ型間でデータ型要素をドラッグできるようになりました。
- DMN データ型としての Business Central データオブジェクトのサポート。DMN デザイナーでは、Business Central の既存のデータオブジェクトを DMN データ型としてインポートできるようになりました。既存のデータオブジェクトを DMN データ型としてインポートするには、DMN デザイナーで **Data types** → **Import data object** に移動します。

Red Hat Decision Manager 7.6 での DMN サポートの詳細情報については、以下のリソースを参照してください。

- [DMN モデルを使用したデシジョンサービスの作成](#)
- [デシジョンサービスのスタートガイド](#)

2.1.5. 高可用性 Business Central

Business Central の高可用性 (HA) デプロイメントが Red Hat OpenShift Container Platform version 3.11 でサポートされるようになりました。

Red Hat Decision Manager バージョン 7.6 では、Business Central の HA デプロイメントはサポートされますが、特定の制限があります。

- 使用時に Business Central インスタンスに問題が発生した場合には、エラーメッセージが表示される場合があります。このような場合には、別の Pod にリダイレクトされます。Business Central が Red Hat Single Sign-on を使用する用に設定されている場合には、再度ログインする必要はありません。
- ユーザーの操作時に Business Central インスタンスに問題が発生した場合には、コミット (保存) されていないデータが失われる可能性があります。
- インスタンスでのプロジェクトの作成時に、Business Central インスタンスに問題が発生した場合には、作成されたプロジェクトが使用できない可能性があります。
- インスタンスでアセットの作成時に、Business Central インスタンスに問題が発生した場合には、アセットは作成されてもインデックス化されない可能性があり、このアセットは使用できません。アセットをインデックス化するには、Business Central でアセットを開き、保存しなおしてください。

2.2. プロセスデザイナー

2.2.1. プロセスデザイナーの更新

以下のリストでは、プロセスデザイナーの更新についてまとめています。

- 初回ユーザーに対してキャンバスで最初のプロセスノードを追加する方法をガイドするように UI の機能拡張
- ロード時間、ノードの選択、コピーアンドペーストなど、パフォーマンスの向上

2.3. RED HAT BUSINESS OPTIMIZER

2.3.1. Red Hat Business Optimizer の更新

以下のリストは、Red Hat Business Optimizer の更新についてまとめています。

- ソースから Red Hat OpenShift Container Platform に OptaWeb Vehicle Route Planning (VRP) をデプロイするスクリプト
- エンティティシーケンスを理解する Move セレクター
- OptaWeb Employee Rostering での ReactJ と SpringBoot のサポート
- NQueens、タスク割り当て、航空機乗組員のスケジューリングのユースケースに対する Constraint Streams API の完全サポート。API の他の機能は依然としてテクノロジープレビューです。

2.4. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

2.4.1. Operator デプロイメントでの AMQ 設定のサポート

Operator ユーザーインターフェイスを使用して Red Hat OpenShift Container Platform に Red Hat Decision Manager をデプロイする場合に、外部の AMQ メッセージブローカーを使用して JMS API をサポートするように Decision Server を設定できるようになりました。

第3章 非推奨コンポーネントと削除されたコンポーネント

本セクションのコンポーネントは、非推奨または削除されました。

3.1. AUTOMATION BROKER を使用した RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM へのインストール

Red Hat Decision Manager 7.6 以降で、Automation Broker (Ansible Playbook) を使用して Red Hat OpenShift Container Platform に Red Hat Decision Manager をインストールする機能が削除されました。

3.2. レガシーのテストシナリオツール

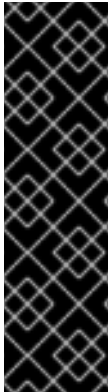
レガシーのテストシナリオツールは、Red Hat Decision Manager 7.3.0 で非推奨になりました。今後の Red Hat Decision Manager リリースで削除される予定です。代わりに、新しいテストシナリオデザイナーを使用してください。

3.3. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM 3.X のサポート

Red Hat Decision Manager 7.5 のリリースから、Red Hat OpenShift Container Platform 3.x のサポートは非推奨になりました。Red Hat OpenShift Container Platform 3.x のサポートは、今後の Red Hat Decision Manager リリースでは廃止される予定です。Red Hat OpenShift Container Platform 4.x で Operator を使用して Red Hat Decision Manager をデプロイすることを検討してください。

第4章 テクノロジープレビュー

本セクションでは、Red Hat Decision Manager 7.6 のテクノロジープレビュー機能を説明します。Business Central には、デフォルトで無効になっている実験的機能管理ページが含まれています。このページを有効にするには、**appformer.experimental.features** プロパティの値を **true** に設定します。



重要

本章の機能はテクノロジープレビュー機能です。テクノロジープレビュー機能は、Red Hat の実稼働環境でのサービスレベルアグリーメント (SLA) ではサポートされておらず、機能的に完全ではない可能性があるため、Red Hat では実稼働環境での使用を推奨していません。これらの機能は、今後の製品機能への早期アクセスを提供することで、お客様が機能をテストし、開発プロセス中にフィードバックを提供できるようにしています。

Red Hat のテクノロジープレビュー機能のサポートの詳細は、[テクノロジープレビュー機能のサポート範囲](#) を参照してください。

4.1. RED HAT JBOSS EAP での高可用性オーサリング (オンプレミス)

オンプレミスでの Business Central の高可用性設定は現在、テクノロジープレビュー機能です。ただし、Red Hat OpenShift Container Platform version 3.11 への Business Central の高可用性デプロイメントがサポートされるようになりました。

4.2. CONSTRAINT STREAMS API

Drools Rules Language (DRL) の代替として Constraint Streams API を使用し、プレーンな Java 8+ でのインクリメンタルスコアの計算をプログラミングできます。Constraint Streams API は迅速かつスケーラブルでデバッグ可能です。Constraint Streams API を使用するソルバーの開発やデバッグには、どの IDE でも使用できます。この API ではデルタを使用して、エンジンが必要な計算だけを再実行できます。また、正当化をサポートするので、ソルバーをデバッグするためにソリューションに達した理由を確認できます。Constraint Streams API は NQueens、タスクの割り当て、航空機乗組員のスケジューリングのユースケースを完全にサポートしている点に注意してください。

4.3. OPENSIFT OPERATOR インストーラーウィザード

Red Hat Decision Manager 向けの OpenShift Operator に、インストーラーウィザードが提供されています。このウィザードを使用して、Operator が含まれる Red Hat OpenShift Container Platform に Red Hat Decision Manager 環境をデプロイできます。

4.4. ELASTICSEARCH の後継 RED HAT JBOSS DATA GRID

Red Hat JBoss Data Grid は、非常にスケーラビリティの高い、Red Hat Decision Manager 向けの分散型全文検索および分析エンジンとして、Elasticsearch の代わりに使用されるようになりました。

Red Hat Data Grid は Infinispan のオープンソースソフトウェアプロジェクトで構築されており、インデックス化の機能が含まれているので、大量のデータを素早くほぼリアルタイムに保存、検索、および解析できます。Red Hat Decision Manager のクラスター環境では、クラスターノード全体にわたる複雑な検索を効率的に実施できます。

第5章 既知の問題

本セクションでは、Red Hat Decision Manager 7.6 の既知の問題を紹介します。

5.1. BUSINESS CENTRAL

デプロイメントユニットを追加して手動で GAV 値を入力するときに、ランタイムストラテジーが指定したデフォルト値に設定されない [RHPAM-2623]

問題: Business Central ではデフォルトのランタイムストラテジーを設定できます。ただし、新しいデプロイメントユニットを追加してグループ、アーティファクト、バージョン (GAV) の値を手動で入力すると、ランタイムストラテジーが指定したデフォルト値に設定されません。

問題の再現手順:

1. **Evaluation_Process** のサンプルプロジェクトを Business Central にインポートします。
2. プロジェクトウィンドウで **Settings** をクリックしてから **Deployments** → **General Settings** の順に選択します。
3. **Runtime Strategy** を **Per Process Instance** に変更します。
4. **Build** ボタンの横にあるドロップダウンリストをクリックして、**Build & Install** を選択します。
5. メインメニューで **Deploy** → **Execution Servers** の順に選択して、**Add Deployment Unit** をクリックします。
6. 以下のリストの値を対応するフィールドに入力します。
 - **Name: evaluation:evaluation:1.0.0-SNAPSHOT**
 - **Group Name: evaluation**
 - **Artifact Id: evaluation**
 - **Version: 1.0.0-SNAPSHOT**
7. **Next** をクリックします。この段階で **Finish** をクリックすると、結果は変更されません。
8. 表示されるウィンドウで、ランタイムストラテジーが **Singleton** となっている点に注目してください。
9. **Finish** をクリックします。
10. デプロイメントを開始します。
11. デプロイメントが完了したら、**http://localhost:8080/kie-server/services/rest/server/containers/evaluation:evaluation:1.0.0-SNAPSHOT** などの、デプロイメントリンクをクリックしてください。
12. 以下のように、リンクに表示される XML 情報でランタイムストラテジーを表示します。

```
<config-items>
  <itemName>RuntimeStrategy</itemName>
  <itemValue>SINGLETON</itemValue>
  <itemType>BPM</itemType>
</config-items>
```

■
 想定される結果: ランタイムストラテジーが **Per Process Instance** になります。

実際の結果: ランタイムストラテジーが **Singleton** となります。

回避策: 新しいデプロイメントユニットを作成するときに、GAV の値を手動で入力せずに、リストからアーティファクトを選択します。または、新規デプロイメントユニットの作成時に、ランタイムを手動で選択します。

Elytron アダプターがインストールされている場合は、タスクを開始できない [RHPAM-2450]

問題: Red Hat JBoss EAP の Business Central が Elytron アダプターを使用して RH-SSO と統合されている場合は、タスクの開始後にエラーが表示されます。

問題の再現手順:

1. Red Hat JBoss EAP に Red Hat Decision Manager をインストールします。
2. RH-SSO を介した Business Central を Elytron アダプターを使用して設定します。
3. プロセスのサンプルをインポートします。
4. プロセスを開始します。
5. タスクを開始します。

想定される結果: タスクが正常に開始されます。

実際の結果: タスクは開始せず、エラーが表示されます。

回避策: Elytron アダプターではなくレガシーのアダプターを使用します。以下のコマンドを実行して、レガシーのアダプターをインストールします。

```
./bin/jboss-cli.sh -c --file=bin/adapter-install.cli
```

ガイド付きルールエディターで **is contained in comma separated list** の制約と、複雑な値をあわせて使用できない [RHPAM-2457]

問題: ガイド付きルールエディターでは **is contained in comma separated list** の制約と複雑な値を併用できません。複雑な値とは、コンマが含まれている値や、括弧で囲まれている値のことです。

回避策: なし。

サーバーが切断されて、Business Central に再接続されたあとに、Decision Server の状態が Business Central のサーバーテンプレートで更新されない [RHPAM-2544]

問題: Decision Server が切断されて Business Central に再接続されたあとに、Business Central のサーバーテンプレートで、このサーバーの状態が更新されません。たとえば、Decision Server が Development モードから Production モードに切り替えられた場合に、Business Central でこの変更が認識されません。

問題の再現手順:

1. Decision Server が Business Central に接続されており、Development モードに設定されていることを確認します。
2. Decision Server をシャットダウンします。

3. 実動モードを使用するように Decision Server を再設定します。他の設定オプションは変更しないでください。
4. Decision Server の起動
5. **SNAPSHOT** バージョンのサーバーをサーバーテンプレートにデプロイします。

想定される結果: Business Central で、サーバーが Production モードで実行されており、サービスのデプロイメントができない旨のメッセージが表示されます。

実際の結果: デプロイメントが開始され、失敗します。

回避策: Business Central でサーバーテンプレートを手動で削除してからサーバーを再起動してください。または、再設定する時にサーバー名を変更してください。

シナリオシミュレーションで右側の Test Tools パネルにタイプではなくフィールドの名前が表示される [RHDM-1153]

問題: 場合によっては、フィールドの型ではなく、右側のテストツールパネルにフィールドの名前が表示されます。

問題の再現手順:

1. Business Central で既存の DMN ファイルを開きます。
2. **Vacation** などの新しい構造を追加します。
3. **number** 型の **Price** など **Vacation** に新しいフィールドを追加します。
4. **Price** フィールドの編集を開始します。
5. **Add Constraints** をクリックして、**Price** フィールドの制約を入力します。
6. DMN ファイルへの変更をすべて保存して、ファイルを閉じます。
7. DMN ファイルの新規テストシナリオを作成します。
8. 列を選択します。
9. 右側のパネルを展開します。
10. **Test Tools** パネルをクリックします。

想定される結果: パネルに **Price[number]** フィールドの名前と型が表示されます。

実際の結果: パネルに **Price[Price]** のフィールド名が 2 回表示されます。

回避策: なし

5.2. 高可用性

高可用性オーサリング環境で、あるユーザーがプロジェクトをインポートすると、別のユーザーにはこれが表示されない [RHPAM-2470]

問題: 複数のユーザーが高可用性 Business Central に接続し、あるユーザーがプロジェクトを作成すると、別のユーザーにはそのプロジェクトが表示されません。

問題の再現手順:

1. 異なる2つのホストまたはブラウザから別ユーザー (A と B) として、Business Central にログインします。
2. ユーザー A およびユーザー B として、同じスペースを開きます。
3. ユーザー A は、外部 Git リポジトリの URL を使用してプロジェクトをインポートします。

想定される結果: ユーザー B に対して、インポートされたプロジェクトがスペースに表示されます。

実際の結果: ユーザー B に対して、インポートされたプロジェクトがスペースに表示されません。

回避策: ユーザー B は、スペースを再読み込みします。

高可用性オーサリング環境で、Business Central ノードがダウンすると、プロジェクトの作成に失敗する [RHPAM-2475]

問題: プロジェクトを作成すると、プロジェクトの作成が完了しません。原因は、高可用性オーサリング環境での Business Central ノードが1つダウンしていることです。

回避策: プロジェクトを再度作成します。

高可用性オーサリング環境で、Business Central ノードがダウンすると、アセットの作成が完了しない [RHPAM-2476]

問題: アセットを作成する場合、アセットはインデックス化されません。Business Central に表示されますが、使用することはできません。原因は、高可用性オーサリング環境での Business Central ノードが1つダウンしていることです。

回避策: Project Explorer ビューで、アセットを開き、Save をクリックします。

5.3. DMN デザイナー

Java クラスからデータオブジェクトをインポートする場合に、Java Date 型を含むフィールドが DMN の date 型に変換されない [RHDM-1145]

問題: DMN デザイナーを使用して Java クラスからデータオブジェクトをインポートし、そのクラスに **Date** 型のフィールドが含まれる場合に、作成される DMN フィールドに DMN **date** 型がありません。

問題の再現手順:

1. Business Central でプロジェクトを開きます。
2. Java データオブジェクトを追加します。
3. このオブジェクトに **java.util.Date** フィールドを作成します。
4. Java クラスを保存して閉じます。
5. DMN ファイルを開きます。
6. **Data Types** タブを選択します。
7. **Import Data Object** をクリックします。
8. 作成した Java クラスを選択します。
9. **Import** をクリックします。

10. **java.util.Date** フィールドの変換先フィールドの型を確認します。

想定される結果: フィールドに **date** または **date and time** 型が含まれます。

実際の結果: フィールドに **Any** 型が含まれます。

回避策: フィールドの型を **date** または **date and time** に手動で変更してください。

Java クラスから Date オブジェクトをインポートする場合に、Java List 型が DMN collection 型に変換されない [RHDM-1144]

問題: DMN デザイナーを使用して Java クラスからデータオブジェクトをインポートし、そのクラスに **List** 型のフィールドが含まれる場合に、作成される DMN フィールドに DMN **collection** 型がありません。

問題の再現手順:

1. Business Central でプロジェクトを開きます。
2. Java データオブジェクトを追加します。
3. このオブジェクトに **List** フィールドを作成します。
4. Java クラスを保存して閉じます。
5. DMN ファイルを開きます。
6. **Data Types** タブを選択します。
7. **Import Data Object** をクリックします。
8. 作成した Java クラスを選択します。
9. **Import** をクリックします。

10. **List** フィールドの変換先フィールドの型を確認します。

想定される結果: フィールドに **collection** 型が含まれます。

実際の結果: フィールドに **Any** 型が含まれます。

回避策: フィールドの型を **collection** に手動で変更してください。

Properties パネルのデシジョンテーブルヘッダーを変更しても、その変更が保存されない [RHDM-1181]

問題: DMN デザイナーでデシジョンテーブルを編集するときに、ヘッダーをクリックしてそのプロパティパネルを表示できます。ただし、プロパティパネルでヘッダーの設定を変更しても、変更は保存されません。

問題の再現手順:

1. DMN デザイナーで要素のデシジョンテーブルを編集します。
2. テーブルのヘッダーをクリックします。
3. 画面の右側にあるプロパティパネルで、**Input expression** などのフィールドを変更します。

想定される結果: 変更がテーブル内で反映されます。

実際の結果: 変更がテーブル内で反映されません。

回避策: ヘッダーをクリックしてヘッダーの横にあるポップアップウィンドウを表示し、そのウィンドウで設定を編集します。

レイアウト情報が含まれていない DMN ダイアグラムを表示すると、ノードがすべて同じ場所に表示される [RHDM-1150]


問題: DMN モデルファイルを開き、このファイルにレイアウト情報が含まれていない場合に、DMN ノードがすべて同じ場所に表示されます。

問題の再現手順:

1. Business Central でプロジェクトを開くか、作成します。
2. レイアウト情報が含まれない DMN モデルファイルをインポートします。

想定される結果: ノードがキャンバス全体に配置されます。

実際の結果: 全ノードが同じ場所に表示されます。

回避策: ツールバーの  自動レイアウト ボタンをクリックします。

5.4. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

AWS EBS ボリュームプラグインで ReadWriteMany (RWX) 永続ボリュームアクセスモードのサポートがないため、AWS Elastic Block Storage (EBS) を備えた Amazon Web Services (AWS) で実稼働環境をデプロイできない [RHPAM-2480]

問題: Red Hat OpenShift Container Platform での Red Hat Decision Manager のインストールに使用する複数のテンプレートと、Business Automation Operator を使用した複数の環境タイプのデプロイメントは、EBS を備えた AWS へのデプロイに失敗します。テンプレートおよび環境タイプには、**ReadWriteMany** アクセスモードへのサポートが必要な永続ボリューム要求 (PVC: Persistent Volume Claim) が含まれ、AWS EBS ボリュームプラグインはこのアクセスモードで永続ボリュームをプロビジョニングしません。

rhdm76-authoring-ha.yaml テンプレートに影響があります。

回避策: NFS サーバーをデプロイし、NFS を使用して永続ボリュームをプロビジョニングします。NFS を使用した永続ボリュームのプロビジョニングについての詳細は、以下のガイドのいずれかを参照してください。

- Red Hat OpenShift Container Platform バージョン 3 の場合は、[OpenShift Container Platform 3.11 クラスターの設定ガイド](#)の NFS を使用した永続ストレージセクションを参照してください。
- Red Hat OpenShift Container Platform バージョン 4 の場合は、[OpenShift Container Platform 4.2 ストレージ](#) ガイドの NFS を使用した永続ストレージセクションを参照してください。

依存関係のバージョンが異なるため、OptaWeb Vehicle Routing テストに失敗する [RHDM-1129]

問題: 誤った **package-lock.json** ファイルで、OptaWeb Vehicle Routing が配布されます。そのため、依存関係のバージョンが異なると、HTML コードが変化するので、**optaweb-vehicle-routing-frontend** モジュールのスナップショットテストに失敗します。

回避策:

1. ディレクトリーを **optaweb-vehicle-routing-frontend** モジュールに変更します。
2. 以下のコマンドを実行して、必要な依存関係をダウンロードします。

```
$ npm install
```

3. 以下のコマンドを入力して、テストを実行します。

```
$ npm test
```

4. u キーを押して、スナップショットの失敗を更新します。

5.5. オフライン MAVEN リポジトリー

offliner ツールは、オフラインの Maven リポジトリーのアーティファクトをダウンロードするとエラーを報告する [RHPAM-2234]

問題: **offliner** ツールを実行してオフラインの Maven リポジトリーのアーティファクトをダウンロードすると、アーティファクトのダウンロードが失敗したことをこのツールが報告します。エラーメッセージは、**The artifact was not found in any of the provided repositories** です。

回避策: 問題のあったアーティファクトが **installer** に関連する場合には、エラーメッセージを無視してください。このようなアーティファクトは、オフラインの Maven リポジトリーを必要としません。

maven-compiler-plugin または **docbook** アーティファクトなど、他の場合には、追加のリポジトリーを指定して **offliner** コマンドを再度実行してください。

```
java -jar offliner-<version>.jar -r https://maven.repository.redhat.com/ga/ -r  
https://repo1.maven.org/maven2/ -r https://repository.jboss.org/nexus/content/groups/public/ -d  
/home/user/temp rhdm-7.6.0-offliner.txt
```

第6章 RED HAT DECISION MANAGER 7.6.0 で修正された問題

Red Hat Decision Manager 7.6.0 では安定性が増し、本セクションに挙げる問題が修正されました。

6.1. デシジョンエンジン

- スプレッドシートのルールセルの改行が値として誤って追加される [RHDM-1147]
- ルールの左側でメソッドを呼び出す必要がある場合に、デシジョンエンジンは **int** の値を **double** にプロモートしない [RHDM-1135]
- デシジョンエンジンは、パラメーターの結果を最大 24 個サポートする必要がある [RHDM-1133]
- **STREAM** モード、失効したイベント **instanceof** で問題が発生する [RHDM-1126]
- 失効したイベントや **mvel** に関連のある制約で同じものを共有するルールで問題が発生する [RHDM-1124]
- 失効済みのイベントを挿入した場合に、最初の **fireAllRules** の Collect 操作は考慮されない [RHDM-1112]

6.2. BUSINESS CENTRAL

- 認証情報が必要なリモートの Git リポジトリからのクローンが機能しない [RHPAM-2531]
- サンプルのプロジェクトを 2 回インポートするとエラーダイアログが表示される [RHPAM-2434]
- 名前にスペースやアンパサンド (&) が含まれるファイルをアップロードまたはダウンロードできない [RHPAM-2368]
- プロジェクトエクスプローラーでアセットを開くとパフォーマンスの問題が発生する [RHPAM-2359]
- ロールのパーミッションが永続化されず、一定の時間が経過するとリセットされる [RHPAM-2342]
- ガイド付きデシジョンテーブルでアクションコラムを変更しようとする、JavaScript エラーが発生する [RHPAM-2286]
- 新しいデプロイメントユニットのウィザードで **kie-deployment-descriptor.xml** ファイルに設定されているように、デフォルトのランタイムストラテジーを設定する [RHPAM-2119]
- DMN デザイナーのバリデーションでは、存在しない演算子については報告されない [RHDM-1119]
- テストシナリオの DMN コンテキスト式の推奨値が間違っている [RHDM-1116]
- ガイド付きデシジョンテーブルのアクションコラムを変更しようとする JavaScript エラーが発生する [RHDM-1036]
- Windows でユーザー名に特殊文字が含まれる場合には、ログイン時にエラーが発生する [RHDM-813]

6.3. 高可用性

- 高可用性の Business Central でインデックス化すると、Business Central Pod で問題を引き起こすスレッドが作成される [RHPAM-2477]
- Business Central がサンプルプロジェクトを数回インポートする [RHPAM-2372]
- クラスター化された Business Central にログインすると **TimeoutException** が発生する [RHPAM-1749]

6.4. DECISION SERVER

- **kmodule.xml** のコンテンツが無効な場合に、有効なエラーメッセージなしに **KieContainer** の作成に失敗する [RHDM-1118]

6.5. DMN (DECISION MODEL AND NOTATION)

- デシジョンサービスを削除すると、関連のあるデシジョンも削除される [RHDM-970]

6.6. RED HAT OPENSIFT CONTAINER PLATFORM

- ユーザーが Red Hat OpenShift Container Platform で BusyBox イメージを更新した後に Decision Server Pod を起動できない [RHPAM-2431]
- **microdnf** のバグが原因で高可用性の複雑なイメージ処理イメージをビルドできない [RHPAM-2500]
- Operator インストーラー UI に AMQ サポートが追加された [RHPAM-2205]
- OpenShift のテンプレートで AMQ ブローカーバージョン 7.5 に更新 [RHDM-1122]
- Red Hat Business Optimizer スレッドプールサイズで欠けていた環境変数が追加された [RHDM-1096]

付録A バージョン情報

本書の最終更新日: 2021年11月15日(月)